

宝寿の風

第12号
発行者
宝寿院住職
田辺信雄
TEL 62-5739

ごあいさつ

宝寿院住職 田辺信雄

檀家のみなさまには、日頃より宝寿院ならびに宗門の護持発展のために、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。
さて今年も、新型コロナウイルスによる感染拡大により、一年延期となった東京オ



リンピック・パラリンピックが開催される予定ですが、過去の大会とは全く異なる至難の運営が余儀なくされそうです。
「ありがとうございます」という言葉の反意語は、

「あたりまえ」だと言われますが、オリンピックの開催を含め、日々の生活の中で、何でもないこと、ごくあたりまえのことと思っていたことが、実はありがたいことだったことに、改めて気付かされます。

前号でも書きましたが、このような時こそ、今の自分につながる先祖のことを思い、ゆつくりとお墓参りなどをしてみてはいかがでしょうか。新型コロナウイルスによる災禍の一日も早い終息と、檀信徒の皆さまのご健勝を御祈念申し上げます。 合掌

寺宝展を実施しました

当院では、コロナ渦の中での皆さまの心の安らぎの一助になることを願い、春のお彼岸中の二日間、寺宝展を開催しました。
これまで公開したことのない物も含め、屏風・掛軸・古文書・仏像等、秘蔵・収集の宝物を展示いたしました。

二日間の開催期間中、檀家さん以外の人も含め、約50人ほどの方々が観覧に訪れました。機会があれば、いずれまた開催したいと思っています。



如意輪観音
【推定：江戸時代中期】



阿弥陀如来【推定：鎌倉・室町時代】



庚申講例大祭

旧暦十月十六日

宝寿院の年中行事③



摩訶不思議なおはなし 第七話

当院の境内駐車場の桜の木の下に小さな鳥小屋がありますが、ここにいる小鳥は、数年前に亡くなった私の兄が飼っていたものです。

兄は小鳥や山野草などが好きで、墓地の西北にあった兄の家の庭は、足の踏み場もないほどそれらで埋め尽くされていました。そんな兄が体調を崩し、病院で検査をした結果は末期がん、ステージ4でした。兄はそんなことも知らず、手術をすれば治ると信じ切っていました。

私は、せめて最後までいい家は帰って何日かでも過ごさせてやりたいと思い、庭や家の中をきれいに片付けてやりました。しかし、私の願いはかなわず、兄はこの世を去りました。

四十九日の法要も終わり、私は、兄が成仏して、先になくなった両親や長兄などと、あの世で再会し、穏やかに過ごしているものとはかり思っていました。法要が終わって1ヶ月弱が過ぎたある日の夜、私が二階の通路から兄の家の方を見ると、今まで見たこともない光景を目にしました。兄の家の庭に、真っ赤な火の玉が浮かんでいて、目を離れた次の瞬間には、その火の玉は兄がいつもいた部屋に移り、家の中が真っ赤な光で照らされているのがガラスの窓越しに見えました。人は亡くなっても、この世への未練が強いと、なかなか成仏できないと言われるのですが、それは本当なんだと思いました。

住職体験談



楠 正成 「千早城の戦い」合戦図屏風



楠 正行像

温故知新⑪ 宝寿院の沿革

当院は、南北朝時代の南朝の忠臣楠正成公の嫡子楠正行公の正室加富貴御前の開基と伝えられています。御前は16名の家臣（小泉十六氏）とともに小泉に逃れ来て、そこに一族供養のため、法志庵という草庵を結びました。

後の天正年間に、小泉城主の菩提寺龍泉院三世竊山精正和尚が、法志庵を龍泉院の末寺「宝寿院」として開山しました。その後一時衰退しましたが、元禄14(1701)年、宝寿院三世悦山正欣和尚が、宝寿院を当地寄木戸に移し中興開山となりました。その際の開基は初代小泉城主富岡直光の孫野村勘解由允藤原勝久の6代孫野村孫兵衛です。

江戸時代には、寄木戸村領主旗本山本氏の知行地菩提所となり、十世天嶺徹長和尚の明和5(1768)年に、五代目領主で幕府御小姓組番士の山本七兵衛正府から、歴代領主の供養料として、寺領の田5筆、高二石五斗余の年貢免租の寄進を受けています。

江戸時代後期には、桂某を師とする寺子屋が開かれていた記録が残っています。

明治時代に学制が發布されると、明治12年(1879)年12月に、本堂を仮校舎として、現大泉町立南小学校の前身である**知新学校**の一番分校**師道館(師道学校)**が置かれ、大正12年6月26日、大川尋常小学校校舎完成までの44年間、寄木戸村、古氷村、古戸村(明治22年まで)の地域子弟教育の場として大きな役割を果たしました。

令和三年年回表

一周忌	令和二年
三回忌	平成三十一年
七回忌	平成二十七年
十三回忌	平成二十一年
十七回忌	平成十七年
二十三回忌	平成十一年
二十五回忌	平成九年
二十七回忌	平成七年
三十三回忌	昭和六十四年
三十七回忌	平成元年
四十三回忌	昭和六十年
四十七回忌	昭和五十四年
五十回忌	昭和五十年
百回忌	昭和四十七年
	大正十一年

※法要の申し込みはお早めにお願います

祠堂金寄付者ご芳名

橋本 伸一様	平成二十九年	金二十万円
米川 正義様	平成二十九年	金二十万円
坂本ミドリ様	令和二年	金三十万円
根岸 浅雄様	令和二年	金二十万円

右記四名の方々より御寄付いただきました。また、祠堂金（寺の維持管理に充てる基金）を元、本堂内の本尊釈迦牟尼仏像右側の脇侍十一面観音像を修復いたしました。

宝寿院護持会役員

(敬称略)

会長	坂本 新一
副会長	小沼 唯二
会計	三吉 靖典
役員	峯崎 寛
	峯崎 平弥
	田村 照美
	坂本 雅義
	襟川栄太郎
	服部 次男
	新島 克己
	坂本 貞雄
	坂本 勝三

宝寿院ホームページ
 大泉町 宝寿院↑検索
<http://www.hojuin.jp>

安心のお葬式

詳しくはイフまたは、宝寿院にお尋ね下さい。

株式会社 **イフ**

〒370-0115 群馬県伊勢崎市境美原11-16

TEL 0270-27-7722

FAX 0270-27-7723

お葬式に必要なものはコースに含まれています！

■ 但し、導師へのお布施、葬家により増減のある、返礼品、料理関係はコース外です。

■ 葬儀一式・Aコース
葬儀・告別式のみ「1日コース」

24

税別価格
万円

■ 葬儀一式・Bコース
通夜、葬儀・告別式の「2日コース」

32

税別価格
万円

お迎え寝台車と霊柩車

追加のない葬具一式

遺影と大写真看板類各種

諸手続き代行

司会、葬儀会食スタッフ

羽織袴、白無垢を真綿で手作り

葬儀記録写真アルバムにして進呈

ご自宅を白幕で装飾

対象式場 ■ 大泉・太田斎場 ■ 宝寿院本堂・檀信徒会館

病院などへの寝台車は、24時間・365日 即対応します！